

(3) 「教育」に関する部局独自の取組概要

防災研究所の教員は、理学研究科・工学研究科・情報学研究科の協力講座構成員として、学部生および大学院生の教育に携わっている。全学の自己点検・評価に際して、教育に関する分析・評価は、各研究科において実施されているが、ここでは防災研究所独自の教育に関する取組についてのみ記載する。

- 各研究科の協力講座として毎年、修士課程 100 名前後（[資料 F-1](#)、[資料 F-2](#)）、博士後期課程 90 名～120 名（[資料 F-3](#)、[資料 F-4](#)）の大学院生を受け入れている。この中には、世界各地からの留学生 80～100 名（[資料 F-5](#)、[資料 F-6](#)）が含まれ、防災研究者の育成をグローバルに展開している。またそれ以外にも、研究生・受託研究員・研修員も一定数を受入れ教育を実施し、研究の裾野の拡大に務めている。
- 防災研究所教員は毎年度、約 110 科目の大学院講義を担当（[資料 F-7](#)、[資料 F-8](#)）していることに加え、約 55 科目の学部講義（[資料 F-9](#)、[資料 F-10](#)）、約 25 科目の全学共通科目（[資料 F-11](#)、[資料 F-12](#)）を開講している。特に、少人数科目群 ILAS セミナーにおいて、多くの科目を開講し、学部新入生を対象として問題を見つけ解決するという学問プロセスを体験する場を提供している。
- 国内外の大学・大学院・研究機関においても、多数の講義を行っており、京都大学に限らない人材育成を担っている。
- 博士後期課程院生への経済的な支援として防災研究所独自の財源により、従来からのリサーチアシスタントとしての雇用に加え、リサーチフェローの委嘱を開始した。
- その他学生への支援事業として、博士学位論文製本助成（[資料 F-13](#)）や学術論文掲載費等への補助（[資料 F-14](#)）を行っている。